

CREATIVE

2021.4-2031.3

協働・共創
持続可能な
クリエイティブ
シティをめざす

門真市
文化芸術
推進基本計画改訂版

市長あいさつ

「門真市文化芸術推進基本計画」は、策定から5年が経過し、中間見直しの時期を迎えました。計画策定後の実践を見据えた門真市文化芸術推進基本計画パイロットプロジェクト実行委員会にて、空き地・空き店舗を活用したアート作品の展示やウォールアートの制作など、創意あふれる取組が展開されてきました。



また、門真市民文化会館ルミエールホールをはじめとする文化施設や社会教育施設を拠点として、市民の皆様による主体的な文化芸術活動や、公民連携による多様な事業が着実に広がりを見せています。

一方、少子高齢社会の進展や昨今の物価高騰など、市民生活を取り巻く環境は大きく変化しています。こうした状況のなかにあっても、誰もが文化芸術にふれ、学び、楽しむことのできる機会を確保し、文化芸術を通じた人と人とのつながりを育んでいくことが重要です。文化芸術を活かして、活気あるまちをつくるためには、文化芸術を限られた場所や人にとどめるのではなく、まちの身近なところで気軽に親しめるものとして広げていかなければなりません。

そのためにも、門真らしい文化芸術を育む「場づくり」と、それを支える「仕組みづくり」を進めていくことが求められています。

今後も、「協働・共創」を軸に、市民、団体、事業者、行政が力を合わせ、それぞれの強みを活かしながら、本市ならではの文化芸術の振興に取り組んでまいります。

結びに、本計画の見直しにあたり、貴重なご意見やご提案をお寄せいただきました門真市文化芸術推進審議会委員の皆様をはじめ、ご協力賜りましたすべての関係各位に心より感謝申し上げます。

令和8年3月 門真市長 宮本 一孝

門真市文化芸術推進基本計画

【改訂版】

目次

第1章 はじめに

- 1. 中間見直しの趣旨 4
- 2. 計画策定後の主な動向 4

第2章 文化芸術の現状と課題

- 1. 市民アンケート調査の概要 6
- 2. 市民アンケート調査結果から見えた現状 6
- 3. 施策や事業の実施状況 8
- 4. 取り組むべき課題 12

第3章 施策の展開

- 1. 計画の体系 16
- 2. 具体的な取組の例 17
- 3. 計画の進行・管理 19

第4章 資料編

- 1. 市民アンケート調査結果(抜粋) 24
- 2. 中間見直し過程 30
- 3. 審議会・庁内検討委員会名簿 31
- 4. 諮問・答申書 32

CARE

ATTI

第1章
はじめに

VE

1

1. 中間見直しの趣旨

本市では、誰もが文化芸術を身近にふれることができ、文化芸術があふれるまちの実現のために、「協働・共創」をキーコンセプトとした門真市文化芸術推進基本計画(以下、「本計画」という。)を、令和3(2021)年度から令和12(2030)年度までの10年間の計画として策定しました。

今回は、計画策定から5年が経過することから、これまでの文化芸術に関する取組を振り返り、社会状況や文化芸術を取り巻く環境の変化に応じ、今後の取組をより良いものにするため、中間見直しを行いました。

2. 計画策定後の主な動向

新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、令和2(2020)年2月、大規模感染のリスクを回避するため、政府から大人数が集まる文化イベント等については、中止、延期又は規模の縮小等を求められました。本計画が策定された令和3(2021)年3月時点で本市においても、音楽の授業や部活動、サークル活動や発表会、祭りやコンサート、各種イベントが中止や延期、縮小されるなど、文化芸術分野は極めて甚大な影響を受けました。

そのような状況下においても、本計画を実践する試験的プロジェクトとしてはじまった「門真市文化芸術推進基本計画パイロットプロジェクト」は、実行委員として絵画教室の経営者や芸大生、アーティストが多く集まるカフェのオーナー、市内在住のプロカメラマンなど地域で文化芸術活動に携わっているメンバーが加わったことで、今まで文化芸術活動にあまり関心のなかった若い世代が多く参加するようになりました。

一方で、中学校等の文化部活動は、少子化の進行等により、持続可能性という面で厳しい状況となっています。このような状況のなかでも、生涯にわたり子どもたちが文化芸術に親しむことができる機会を確保していくことが求められています。

パイロットプロジェクトの一環として開催されている「KADOMA ART FES」は、令和4(2022)年からはアーティスト等が制作した作品を募集し、審査を行うコンクール形式のアートフェスティバルとなり、今では日本全国から作品が寄せられるようになっています。

その他、令和2(2020)年11月に大阪を代表する4大オーケストラのひとつである関西フィルハーモニー管弦楽団と「音楽と活気あふれるホームタウンパートナー協定」を締結し、0歳から親子で楽しめるコンサートや市内小学校でのアウトリーチコンサート、中学生音楽会(市内中学生向けのオーケストラ鑑賞会)、アンサンブル・コンサートを実施しているほか、中学生吹奏楽団の指導にも取り組み、積極的に活動しています。

CARE

ARTI

第2章

文化芸術の現状と課題

VE

2

1. 市民アンケート調査の概要

市民等の文化芸術に対する考え方や関わり方、課題などを把握するため、アンケート調査を実施しました。

調査方法等	<ul style="list-style-type: none"> ・紙調査 公共施設(※1)利用者、市内の高校3年生 ・WEB調査 広報かどま(QRコードを掲載)、市公式LINE登録者、市職員
実施期間	令和7(2025)年6月20日から令和7(2025)年7月31日まで
回収結果	有効回収数 2,079件 <内訳> <ul style="list-style-type: none"> ・公共施設利用者 1,217件 (※1:ルミエールホール・門真市民プラザ・公民館 958件、市内高齢者施設 259件) ・市内の高校3年生 307件 ・広報かどま及び市公式LINEを通じた回答 245件 ・市職員 310件

2. 市民アンケート調査結果から見た現状

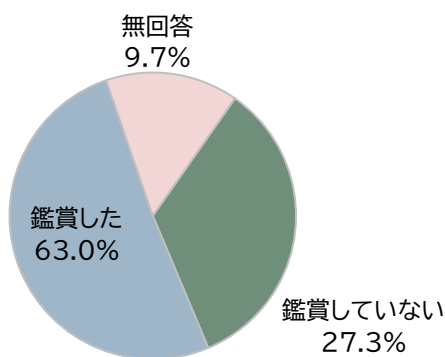
ここでは、アンケート調査の結果から見た本市の現状を記載しています。また、若年層の特徴や傾向を把握し、今後の取組を検討するため、回答者全体と10代の比較を行いながら課題の整理を行いました。

誰もが気軽に文化芸術にふれられる環境づくり

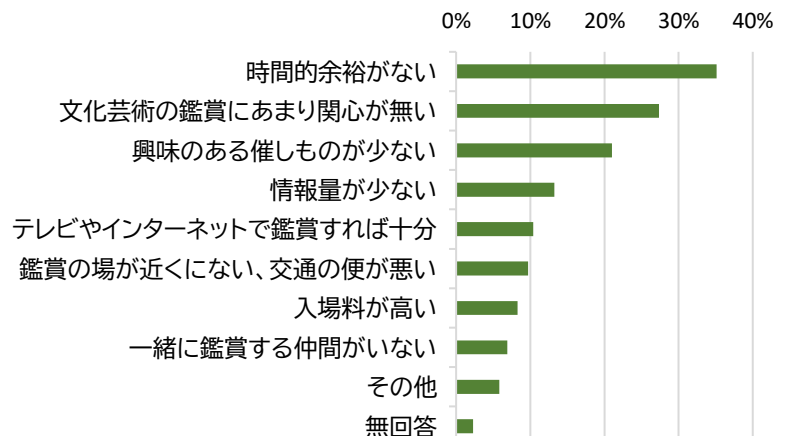
ホールや映画館などにおいて、文化芸術分野の鑑賞を行ったと回答した人の割合が63.0%、鑑賞していないと回答した人の割合が27.3%となっています。

「鑑賞した」と答えた人に対して、より質の高い鑑賞機会の提供やサービスの充実により満足度の向上を図るとともに、文化芸術の鑑賞に関心がない人に対して、気軽に参加できる機会づくりや分かりやすい情報発信など、関心を喚起するための取組を検討する必要があります。

その他、「施設や場所が近くになかったり、交通の便が悪い」が9.7%となっており 南部地域におけるイベントやアウトリーチの実施、障がいのある人も含めた誰もが気軽に文化芸術活動を実施し、鑑賞できる環境づくりが重要です。



この1年間にホールや映画館などで文化芸術を鑑賞した人の割合(問13)

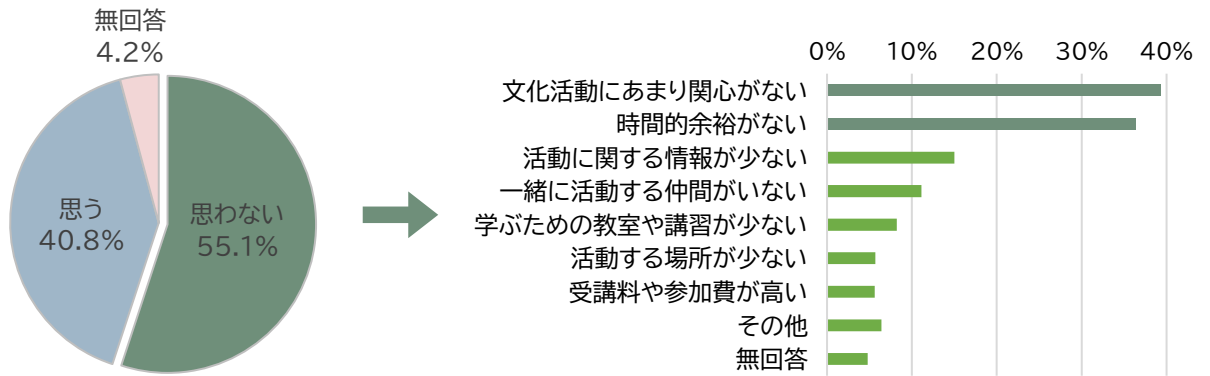


この1年間にホールや映画館などで文化芸術を鑑賞しなかった理由(問14)

情報発信の充実

市民アンケート調査において、市の文化芸術活動が活発になったと思わないと答えた人の文化芸術活動を行っていない理由として、「文化活動にあまり関心がない」、「時間的余裕がない」に次いで、「活動に関する情報が少ない」が多く挙げられました。

こうした結果を踏まえ、関西フィルハーモニー管弦楽団との連携や文化創造図書館KADOMADO、ルミエールホールなど門真市が有する文化芸術にかかるコンテンツの魅力を発信するための情報発信プラットフォームの構築など情報発信を充実させる必要があります。



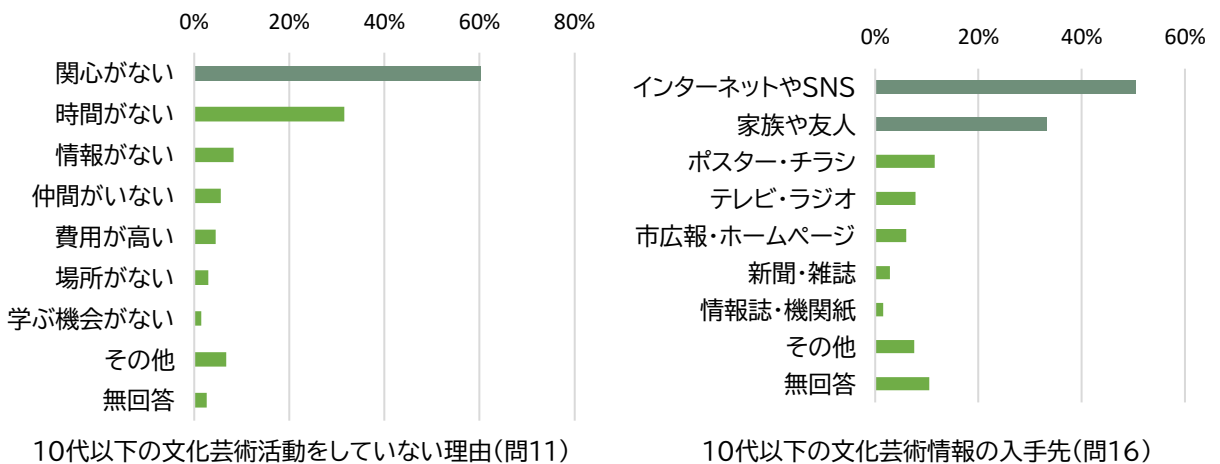
この5年間で、門真市の文化芸術活動は活発になったと思うか(問6)※2

文化芸術活動をしていない理由(問11)

※2 構成比は小数点以下を四捨五入しているため、合計が100%とならないことがあります。

若年層に向けた取組の実施

市民アンケート調査の結果から、10代以下において文化芸術に関心がないと答えた人が多いこと、市内の文化的資源等の認知度が低いことがわかりました。SNSや家族・友人からの口コミを利用した周知と併せて、文化芸術団体や教育委員会と連携し、幼少期から10代にかけて文化的資源や文化芸術活動を知り・ふれる機会を拡充する必要があります。



※ 一部の項目名は内容を要約して表記しています

3. 施策や事業の実施状況

令和3(2021)年度から令和7(2025)年度までの期間において、施策展開に向けた基本方針の「4本の柱」に基づき様々な取組を行ってきました。

柱1：基本方針 市民の文化活動の活性化

基本施策

- 市民(団体)の文化活動の支援
- 地域の文化活動の支援
- 身近な文化活動の促進
- 学校教育での文化芸術活動の推進

これまでの主な取組

- 大和田駅前広場を中心として、アートイベントやアート作品の展示を行うKADOMA ART FESの実施
- 関西フィルハーモニー管弦楽団による中学生音楽会の実施
- 関西フィルハーモニー管弦楽団による小学校4年生を対象としたアウトリーチを実施
- 障がいのある人や高齢者の作品展「きらめきアートフェスタ」や「きらめきロビーコンサート」の開催
- 門真市の伝統芸能「ひんや節」を門真市地域文化財第1号に指定

現状と課題

新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、活動自粛要請や対面活動の制限が続く状況にありましたが、その中においても KADOMA ART FES の実施や、関西フィルハーモニー管弦楽団との連携による事業展開など、文化芸術活動に関する取組を進めてきました。

一方で、文化芸術活動を行うことができない期間が長く続いたことから、特に伝統文化・芸能の分野では、後継者不足が一層進み、コロナ禍以前から存在していた担い手不足がさらに深刻化している状況にあります。若年層の伝統文化・芸術分野への参加を促進するため、文化芸術との関わり方に応じたアプローチを検討するなど、担い手の育成・確保に向けた取組を一層強化していくことが求められています。



門真市の伝統芸能 ひんや節



きらめきアートフェスタ

柱2：基本方針 魅力的な文化芸術活動の充実と文化的な資本の蓄積

基本施策

- 市民による多様な創造活動の支援
- アーティストの門真での活動の促進
- 文化芸術活動のための資金調達の支援
- 活動場所となる施設や機会の整備

これまでの主な取組

- 弁天池公園やクリーンセンターなどにおいて市内中高生や市民による壁画アート制作を支援
- 関西フィルハーモニー管弦楽団によるふるさと納税の返礼品の提供
- ルミエールホールなど公共施設の各諸室を提供
- 大和田駅前広場を中心として、アートイベントやアート作品の展示を行うKADOMA ART FESの実施(再掲)
- KADOMA ART FESのアート作品展示場所として市内空き店舗を活用

現状と課題

KADOMA ART FESでは、アーティストが制作した作品の展示を市内の空き店舗で行うことで、活動場所の選択肢を広げるとともに、アーティストの市内での活動を促進してきました。

一方で、文化芸術活動のための資金調達にむけたクラウドファンディングや企業版ふるさと納税の活用については十分に進んでいない状況となっており、資金調達のための方法の検討や人材の育成などが求められています。



KADOMA ART FES



ルミエールホール(門真市民文化会館)

柱3：基本方針 市民の情報発信力強化によるシティプロモーションの推進

基本方針

- 個々の活動の情報発信力の充実
- シティプロモーションの推進
- 情報発信プラットフォームの構築
- 門真を代表するコンテンツの創出

これまでの主な取組

- イベント風景などの撮影が必要な団体に、撮影者を紹介
- ルミエールホールホームページに、門真で活動するサークルを紹介するページや、かどまアーティストバンクのページを構築
- 関西フィルハーモニー管弦楽団と「音楽と活気あふれるホームタウンパートナー協定」を締結
- 門真市ふるさと大使の委嘱
 - ・ 歌手 広瀬 香美 氏(門真の星大使) 令和6(2024)年1月～
 - ・ 関西フィルハーモニー管弦楽団 総監督・首席指揮者 藤岡 幸夫 氏(門真情熱大使) 令和6(2024)年1月～
 - ・ 歌手 松岡 充 氏(門真の「街」大使) 令和7(2025)年4月～
- 大阪・関西万博 大阪ウィークへの出演

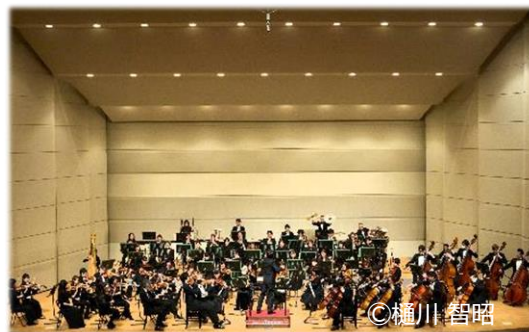
現状と課題

市民アンケート調査では、この1年間にホールや映画館等において文化芸術の鑑賞を行っていないと回答した人のうち、「文化芸術の鑑賞にあまり関心がない」と回答した人が27.3%のうち、「興味のある催しものが少ない」と回答した人が21.0%となっています。

年齢層や興味・関心の傾向に応じた効果的な広報活動を実施し、市の魅力発信を強化する必要があります。



わがまち門真市民ミュージカル



関西フィルハーモニー管弦楽団

柱4：基本方針 協働・共創の場と機会づくり

基本方針

- 文化芸術推進プラットフォームの形成
- 共有データベースやアーティストバンクの整備
- 市役所内部での理解の普及
- 事業者の文化芸術活動への参加促進

これまでの主な取組

- 市民有志等が参画する門真市文化芸術推進基本計画パイロットプロジェクト実行委員会やみんなで作る門真の第九実行委員会の形成
- 職員研修の一環として音楽サロンを実施
- ものづくり企業ネットワークへの関西フィルハーモニー管弦楽団のリハーサル公開を実施
- ルミエールホールのホームページに、門真で活動するサークルを紹介するページや、かどまアーティストバンクのページを構築(再掲)

現状と課題

パイロットプロジェクト実行委員会やアーティストバンクの構築を行ったほか、市民、市内企業、職員など様々な対象に対して、関西フィルハーモニー管弦楽団による音楽サロンの実施やリハーサル公開など、文化芸術にふれる機会づくりを行ってきました。

しかしながら、市民アンケート調査では、「KADOMA ART FES」の認知度が10.3%、「関西フィルハーモニー管弦楽団との連携」が36.0%にとどまっており、イベントや取組そのものを市民の暮らしに根付かせることに加え、運営面、資金面で支援したいという人や企業を巻き込んでいくような仕組みづくりが必要です。



みんなで作る門真の第九



地域伝統文化まつり

4. 取り組むべき課題

当初の計画で本市が取り組むべき3つの課題を設定しました。これらの課題は数年程度の短期間の取組ですぐに改善されるものではないため、今回の中間見直しにおいては当初の計画で設定した課題を踏襲し、現在の状況を踏まえた課題の最適化を図ります。

課題その1 魅力

KADOMA ART FESの実施や、関西フィルハーモニー管弦楽団との連携など、文化芸術に関する取組を進めているものの認知度は低く、イベントを周知しつつ、作る・見る・支援するという側面から参加を促し、イベントの魅力を向上させる必要があります。

課題その2 価値

有料イベントになるとチケットの売れ行きが落ち込むといった状況は現在も変わりはありません。文化芸術活動への参加を通じて、参加者の居場所づくりや地域における人と人との交流の促進に寄与するとともに、文化芸術が身近に感じられる街づくりをすすめることで地域の魅力向上を図るなど、様々な切り口で文化芸術の価値の理解普及に努める必要があります。

課題その3 交流

市民アンケート調査結果では、10代以下において文化芸術に対する関心が低い状態であることがわかりました。中学生音楽会やアウトリーチなどの子どもたちが文化にふれる機会を引き続き確保するとともに、地域の伝統文化にふれる機会を創出し、まず文化芸術そのものに興味を持ってもらい、実際に活動に参加してもらえようような仕組みづくりが必要です。

コラム

関西フィルハーモニー管弦楽団との連携

令和3(2021)年4月から練習拠点と事務所を門真市に移転した「関西フィルハーモニー管弦楽団」は、日本オーケストラ連盟正会員の楽団で、政令指定都市や中核市ではない一般市に拠点を置く初めてのオーケストラとなりました。

移転直後から市民に向けた公開リハーサル、関西フィル主催コンサート、0歳からのクラシックコンサート、小学校でのアウトリーチコンサート、中学生の部活動地域展開の指導など、オーケストラ、団員ともに幅広い年齢層の市民に良質な音楽を届けてくれています。

令和6(2024)年1月には関西フィル総監督・首席指揮者の藤岡幸夫さんが門真ふるさと大使(愛称:門真情熱大使)に就任。大阪・関西万博の「大阪の祭! ~EXPO2025 秋の陣~」のステージでは、門真ふるさと大使(愛称:門真の星大使)の広瀬香美さんと共演して話題となりました。今では、オーケストラ(関西フィル)が門真のまちの文化として息づいています。



中学生音楽会



アウトリーチコンサート



門真情熱大使の藤岡さん
(ニューイヤーコンサートにて)

©樋川 智昭

大阪・関西万博「大阪ウィーク」に出展

大阪・関西万博の会期中、春・夏・秋の3期、35日間に渡り府内の市町村が一体となって大阪の魅力を国内外に発信する「大阪ウィーク」のステージには、市内で活動する団体が出演し、熱いパフォーマンスで会場を大いに盛り上げました。

春の陣

大阪各地のだんじり・やぐら・太鼓台が集合。平成31(2019)年に設立された17団体で構成される「門真市地域伝統文化まつり協議会」からは、古川橋地車保存会と門真神社太鼓臺保存会が出演しました。



古川橋地車保存会の皆さん

真夏の陣

盆踊りや子どもたちの熱気溢れるパフォーマンスを届けるステージには、ひんや節保存会とわがまち門真市民ミュージカルが出演。ミュージカルには4歳の子どもから80歳の高齢者まで100名を超える方々が参加しました。



唄とお囃子に合わせて、あでやかな衣装で踊りを披露



会場ステージを使った獅子舞と踊り



わがまち門真市民ミュージカルは、門真に伝わる民話『まんだの堤』を題材にしたオリジナル作品を上演

秋の陣

大阪ゆかりのアーティストによる音楽ステージには、門真ふるさと大使を務める広瀬香美さんと、藤岡幸夫さんが共演し、関西フィルハーモニー管弦楽団の演奏でコラボレーションしました。

ステージのラストには市内の子どもで編成した門真の星合唱団in大阪・関西万博も参加し、広瀬さんの代表曲「ロマンスの神様」を合唱し、会場を盛り上げました。



コラム

旧砂子小学校を活用した新市民プラザの整備

現門真市民プラザの老朽化及びまちづくりの進展に伴い、旧砂子小学校を活用して、門真市民プラザ・図書館・南部市民センター・地域高齢者交流サロンの貸室等の機能の集約化を図り、新たな市民プラザとして再整備します。令和10(2028)年度の開館に向けて、子どもから大人まで世代を超えたコミュニティが集まる場所をめざします。



全体イメージ



図書館



本館1階ホール

※画像は計画段階のイメージで、実際とは異なる場合があります

CARE

ATI

VE

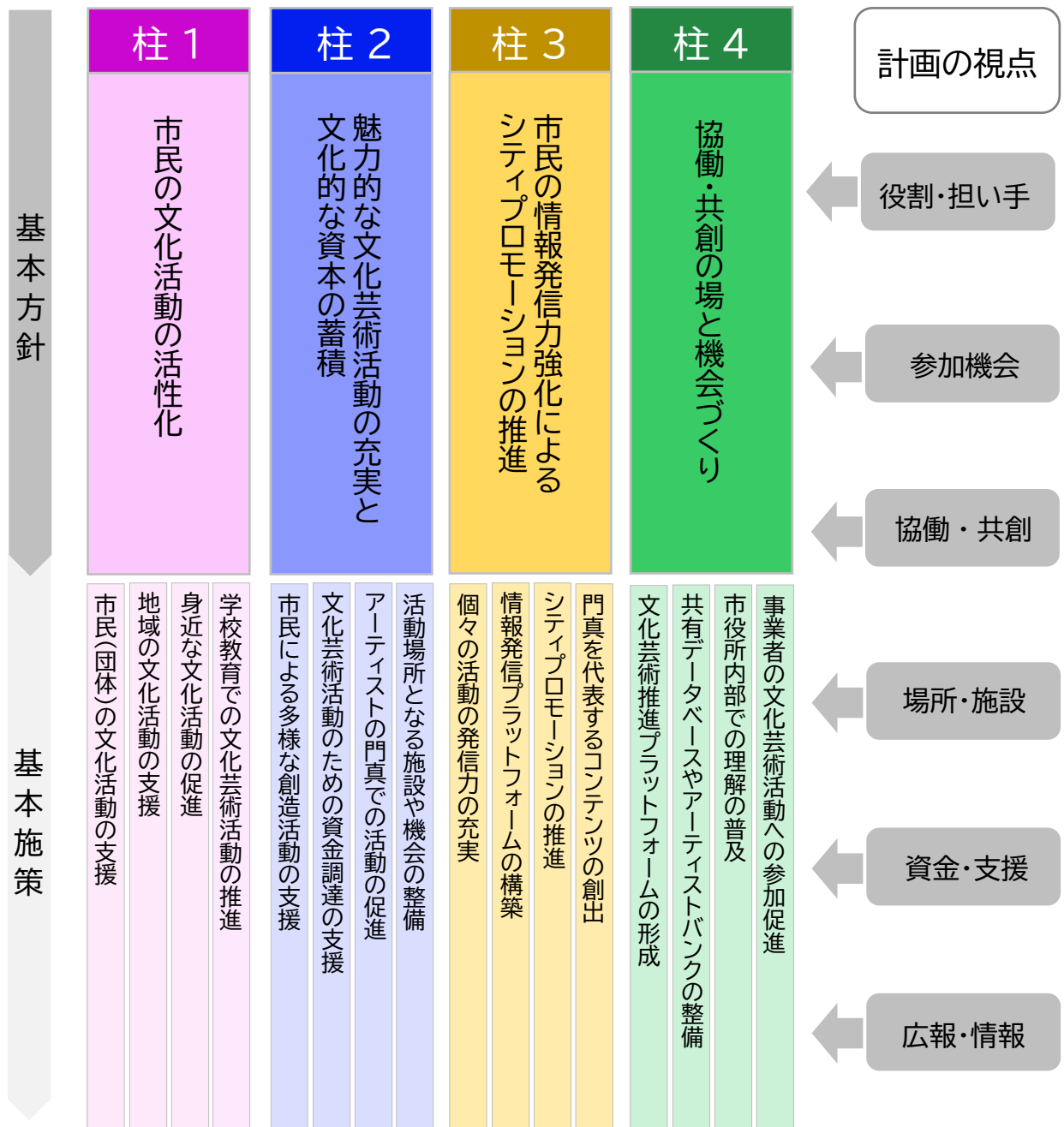
第3章

施策の展開

3

1. 計画の体系

今回の見直しでは、計画の視点や体系、基本方針については当初計画の内容を踏襲し、計画の進捗状況や市民アンケート結果を踏まえ、今後5年間で実施していく具体的な取組の見直しを行います。



2. 具体的な取組の例

柱1 基本方針：市民の文化活動の活性化

市民の文化活動を活性化することで、文化芸術活動に気軽にふれたり鑑賞したりすることにより、生活の中に文化芸術が根づいたライフスタイルを促進し、文化芸術があふれるまちをめざします。

基本施策	具体的な取組の例
市民(団体)の文化活動の支援	<ul style="list-style-type: none"> ● 市内活動拠点の充実(スペースの提供) ● 国等が実施する文化芸術活動にかかる補助金等の周知 ● 地域の文化芸術団体と連携した中学生の文化芸術活動の参加促進
地域の文化活動の支援	<ul style="list-style-type: none"> ● ふるさと門真まつりなど地域の伝統的な行事の開催に向けた支援 ● 市ホームページや広報紙等を通じた地域の文化財(ひんや節やだんじりなど)の魅力発信や普及啓発の展開
身近な文化活動の促進	<ul style="list-style-type: none"> ● 門真市文化祭など気軽に文化芸術にふれる機会の提供 ● 南部市民センターなど市の南部地域における文化芸術にかかるイベントの開催
学校教育での文化芸術活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> ● 学校における文化芸術教育の充実 ● 学校支援団体と連携した昔遊び・伝承遊びなどのイベントの実施 ● 関西フィルハーモニー管弦楽団のほか、新たなアウトリーチ活動の実施

柱2 基本方針：魅力的な文化芸術活動の充実と文化的な資本の蓄積

多くの魅力的な文化芸術活動がいつでも展開されているまちをめざし、それらの活動を映像化したり、施設やまちづくりに活かしたりすることで、本市の文化的資本を蓄積します。

基本施策	具体的な取組の例
市民による多様な創造活動の支援	<ul style="list-style-type: none"> ● 市民参加型の音楽・美術事業や講座の拡大 ● 障がいのある方の作品展「きらめきアートフェスタ」をはじめとする参加・参画の場の充実
文化芸術活動のための資金調達の支援	<ul style="list-style-type: none"> ● ふるさと納税の活用やクラウドファンディングなど、多様な財源確保にむけた取組を促進 ● 国等が実施する文化芸術活動にかかる補助金等の周知(再掲)
アーティストの門真での活動の促進	<ul style="list-style-type: none"> ● KADOMA ART FESの図録やコンテスト入賞作品に関する情報を発信 ● 国等が実施する文化芸術活動にかかる補助金等の周知(再掲)
活動場所となる施設や機会の整備	<ul style="list-style-type: none"> ● ルミエールホールや公民館、門真市民プラザ等の公共施設の環境整備による市内活動拠点の充実 ● 文化団体に小・中学校や義務教育学校の空き教室を貸出 ● アーティストが制作した作品の展示を空き店舗で行うなど、空きスペースの有効活用を促進

柱3 基本方針：市民の情報発信力強化によるシティプロモーションの推進

文化芸術にあふれた門真市という対外的なシティプロモーションを推進するとともに、市民が誇りを持てるような市内に向けたシティプロモーション(メディア掲載などを含む)を展開します。

基本施策	具体的な取組の例
個々の活動の発信力の充実	<ul style="list-style-type: none"> ● 撮影が必要な団体等に対し、撮影者の紹介や動画編集等の方法について助言・支援を実施 ● 文化芸術活動団体等を対象とした情報発信力とデジタル活用能力向上をめざした講座の開催
情報発信プラットフォームの構築	<ul style="list-style-type: none"> ● 市ホームページ内に、文化芸術活動を一元的にまとめたページを作成
シティプロモーションの推進	<ul style="list-style-type: none"> ● 身近な地域情報の発信によるシビックプライドの醸成 ● 関西フィルハーモニー管弦楽団との協定など、さまざまな主体との連携
門真を代表するコンテンツの創出	<ul style="list-style-type: none"> ● 関西フィルハーモニー管弦楽団との取組を継続して実施し、市内外における認知度を強化 ● 門真市出身アーティストと子どもたちが制作した文化創造図書館KADOMADO内に展示を移す仮囲いアートをはじめとするアートスポットの整備

柱4 基本方針：協働・共創の場と機会づくり

文化芸術活動を推進しようとする市民と、市民の活動をサポートする行政や企業、大学やNPOなどが連携し、協働・共創するためのプラットフォームを構築します。

基本施策	具体的な取組の例
文化芸術推進プラットフォームの形成	<ul style="list-style-type: none"> ● 市と市民の有志で構成されるパイロットプロジェクト実行委員会や、みんなでつくる門真の第九実行委員会の活動支援
共有データベースやアーティストバンクの整備	<ul style="list-style-type: none"> ● 市ホームページ内に文化サークル等の活動内容などを掲載する情報共有ページを作成し、情報共有・情報発信への協力体制を構築 ● ルミエールホールホームページに掲載しているアーティストバンクのページの更新・周知
市役所内部での理解の普及	<ul style="list-style-type: none"> ● 職員用グループウェアを利用し、市職員に対し、文化芸術に関するイベント情報を提供 ● 市が実施した文化芸術分野にかかる取組を職員に周知
事業者の文化芸術活動への参加促進	<ul style="list-style-type: none"> ● 部活動地域移行応援企業等登録制度の市ホームページや広報かどまでのPR ● 人権について考える「ひと・愛・コンサート」などの社会課題に対する理解促進を目的とした啓発型イベントを展開

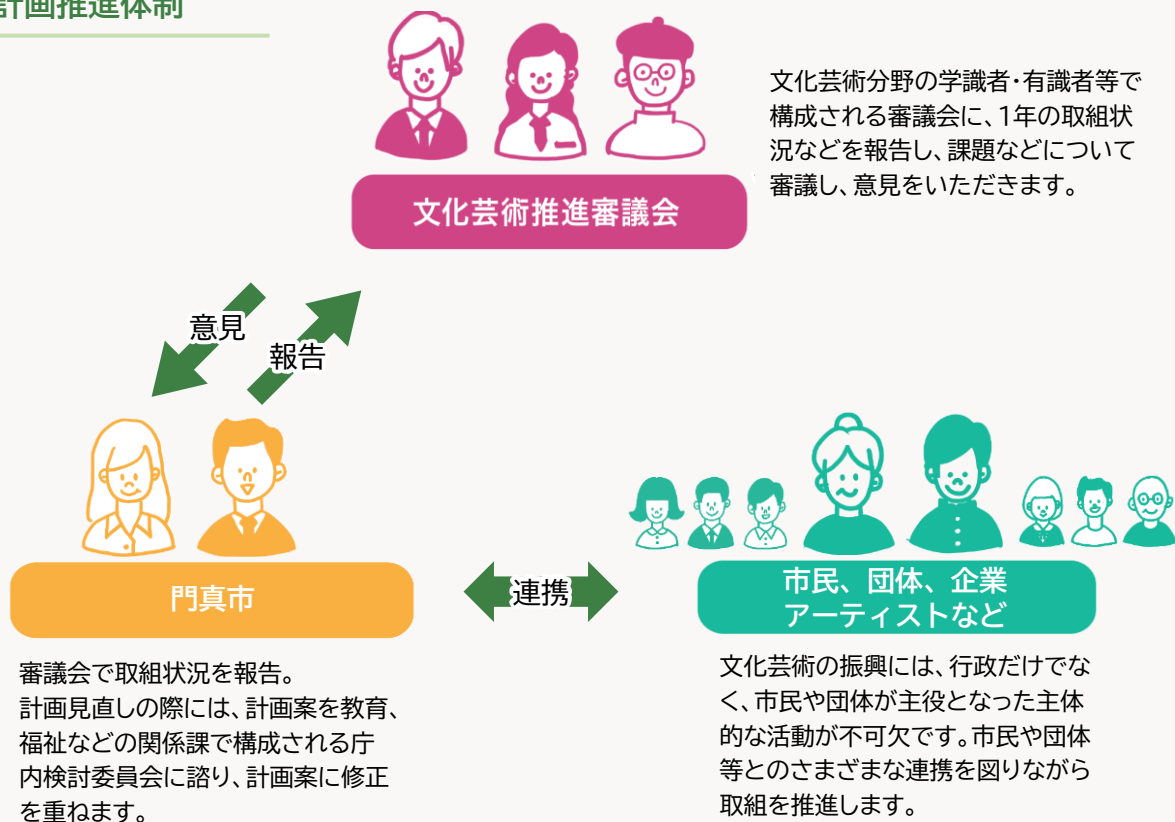
3. 計画の進行・管理

本計画を推進していくため、門真市文化芸術推進審議会において取組の状況等を報告し、計画の進行状況の確認を行います。

計画の最終年度である令和12(2030)年度には、今回同様市民アンケート調査を実施し、進捗状況の把握及び各取組の検証・評価を行い、計画の見直しを図ります。次回のアンケート調査では、以下の指標の増加・減少をめざし、さらなる文化芸術活動の充実に取り組んでいきます。

成果指標	基準値 令和7(2025)年度	目標値 令和12(2030)年度
門真市の文化芸術活動が活発になったと思う人の割合	40.8%	増加
この1年に文化芸術の分野で活動していない人の割合	48.0%	減少
この1年に文化芸術の鑑賞をしていない人の割合	27.3%	減少

計画推進体制



パイロットプロジェクトのあゆみ

KADOMA ART FES 2021

令和3(2021)年12月1日～5日

古川橋、西三荘、大和田の3会場で5日間実施。各会場での作品展示の他に、まちかど・まちなかコンサートや、赤坂電気のウォールアート、マルシェ等を開催。



R3

KADOMA ART FES 2022

令和4(2022)年11月25日～27日

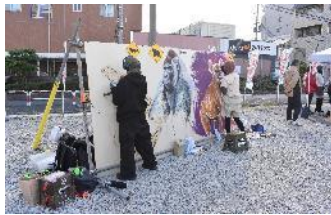
門真市文化芸術推進基本計画パイロットプロジェクト実行委員会を設立。実施場所を大和田駅前に絞って開催。

実行委員会の公式HP開設や、イベント開催前に市内にのぼりを設置するなどして周知。

新たな取組として、アート作品のコンテストを実施。



R4



R5

KADOMA ART FES 2023

令和5(2023)年11月25日～26日

令和4(2022)年に引き続き、大和田駅前周辺で2日間の開催。新たな取組として、コンテストの作品やイベントの様子をおさめた図録を作成。ウォールアートは市内の高校生により、弁天池公園とリサイクルプラザで制作。

また、古川橋イベントとして、令和6(2024)年1月20日・21日にコンテストの入賞作品の展示と表彰式をルミエールホールで開催。

R6



KADOMA ART FES 2024

令和6(2024)年11月30日～12月1日

ウォールアートもスケールアップし、弁天池公園やそよら古川橋には市内の中高生が、KADOMADOの工事仮囲いには実行委員メンバーがライブペインティングを実施。

コンテストには117点の応募があり、新たな取組として、入賞したアーティストの個展を後日ルミエールで開催。

パイロットプロジェクトに参加された方々の声

パイロットプロジェクトに携わる方々にインタビューを行い、どのような思いをもって、計画策定から現在まで歩いてこられたかお聞きしました。



パイロットプロジェクト
実行委員会
石橋 マキコさん

KADOMA ART FESを立ち上げて約5年。アートを通じていろんな人との出会いがありました。会議では新しい発想や意見が出て、様々なアートの企画に取り組むことができました。それを継続し、継承して行く必要性もありますが、アートが町に生まれ存続することで門真市が魅力的に発信され、新たに人が集まる町へと変貌していくと思います。文化芸術は分け隔てなく、皆で手を繋いで楽しめる方向へと導くことが可能です。

今後、様々な分野でそれを絡ませる企画を実行し、楽しく豊かな暮らしを生み出す町を創り上げるために、さらに新しい人との出会いが生まれることを期待しています。



パイロットプロジェクト
実行委員会
高村 知史さん

10年プロジェクトであるKADOMA ART FESは今年で5年目を迎え折り返しとなります。

10年目の目標は「門真市に美術館を」です。新たな門真市の文化や可能性を広げることができればと思いますが、まだまだ浸透していないのが現実で、最終目標に向けて魅力的なイベントにできるように仲間達と日々協議しております。

令和8(2026)年より古川橋にてKADOMADOが開業します。大和田から文化の中心である古川橋に拠点を移し、本来のテーマである「身近にアート」を大事にしつつ、新たな門真市の魅力を発信できるイベントになるように色々な人を巻き込めればと思います。



パイロットプロジェクト
設立メンバー
栗林 哲也さん

門真市文化芸術推進基本計画パイロットプロジェクト開始から5年を経て、街中のウォールアートが増えたと感じます。私が関わって実現できた取組は、約4年前に門真月出郵便局近くの(株)赤坂電機さんにご協力を得て、同社の道路側壁面に、門真はすはな中学校美術部の皆さまにウォールアートを制作していただいたことです。門真みらい小学校の生徒さんの通学路であり、人通りの多い場所でもありますので、今後も記憶に残るウォールアートとなってほしいです！私のもうひとつの計画は、門真月出郵便局前のポストをデコレーションして門真市第1号のアートポストにすることです！アート化するには制限もありますがなんとか実現したいと思っています。



元 庁内検討委員
保健福祉部高齢福祉課
市瀬 瑞季さん

パイロットプロジェクトに参加させていただき、あれから5年が経ちました。私は現在、福祉関連の職場にありますが、一見関係がなさそうな福祉の場でも、アートを用いた活動を目にすることがたくさんありますし、門真の街にもアートやそれに関するイベントが増えたと、他部署の人間でも思うことが多かったです。

アートは人の生きがいにつながるものだと思います。これからも門真市にアートがあふれ、その活動を通じて、いきいきとした方々が活躍できる街にしたいと思います。

文化創造図書館 KADOMADOがオープン

令和8(2026)年5月、古川橋駅北側に図書館を中心とした市民の文化・学習活動と地域活性化を推進する施設「文化創造図書館 KADOMADO」が開館します。市民相互の出会いと交流を促進・創出し、地域コミュニティの活性化につながる場をめざします。

貸室も備えており、文化芸術活動をはじめとする多様な活動を支援する、地域に開かれた活動拠点としての役割を担っていきます。

アトリエなどの市民の主体的な活動の場を確保するとともに、ワークショップなどの開催を通じた文化芸術にふれる機会を創出します。



令和7(2025)年9月には、建設現場を囲む仮囲いに色鮮やかなウォールアートが誕生。門真出身のアーティストemitanajiさんが制作を手掛け、制作期間中には市内の子どもたちが参加するワークショップも開催されました。アートの一部は施設内に移設され、KADOMADOに彩りを添えます。



門真市立歴史資料館がリニューアルオープン

これまで、文化施設として市民の皆さんに親しんでいただいた門真市立市民交流会館中塚荘が、歴史資料館改め「かどま歴史ミュージアム」として令和8(2026)年にリニューアルオープンします。

中塚荘の意匠を継承しつつ、子どもから大人まで楽しみながら門真市の歴史と文化を学ぶことができる展示となるよう、市指定文化財第1号となる普賢寺古墳出土の盾持人埴輪や大塩平八郎の乱に関する古文書などの実物展示に加え、盾持人埴輪の等身大レプリカや土器の立体パズル、地形模型に市の移り変わりなどを投影するプロジェクションマッピングなど、館に「来て・見て・触れる」ことで、学びを深められるような工夫を凝らしています。

オープン後は、門真の歴史にかかわる常設展・特別展のほか、各種講座を開催することで、郷土の歴史や文化を楽しみながら、学んでいただくための拠点となることをめざします。



新資料館となる中塚荘



新資料館展示イメージ



市指定文化財第1号
普賢寺古墳出土 盾持人埴輪

CARE

ATI

第4章

資料編

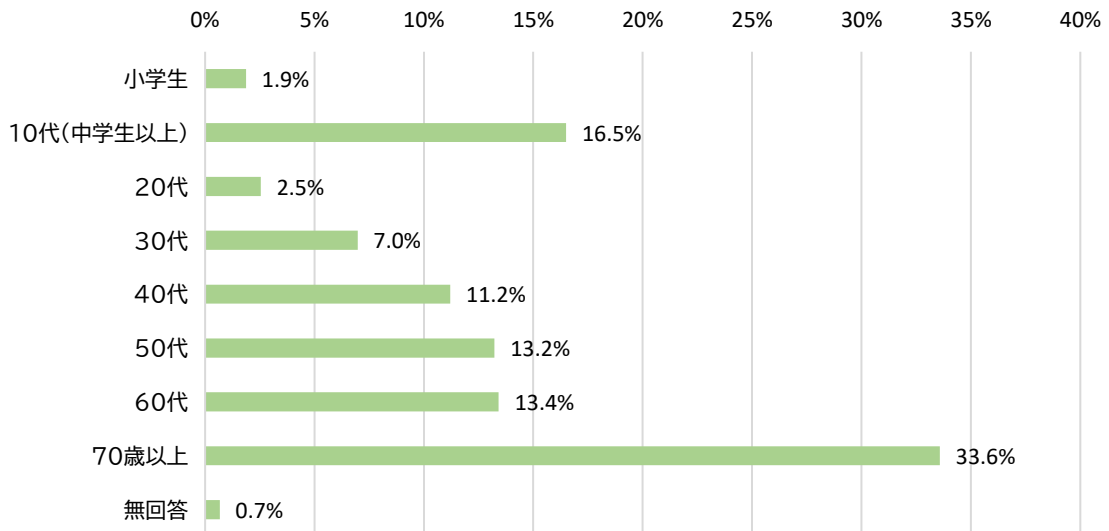
VE

4

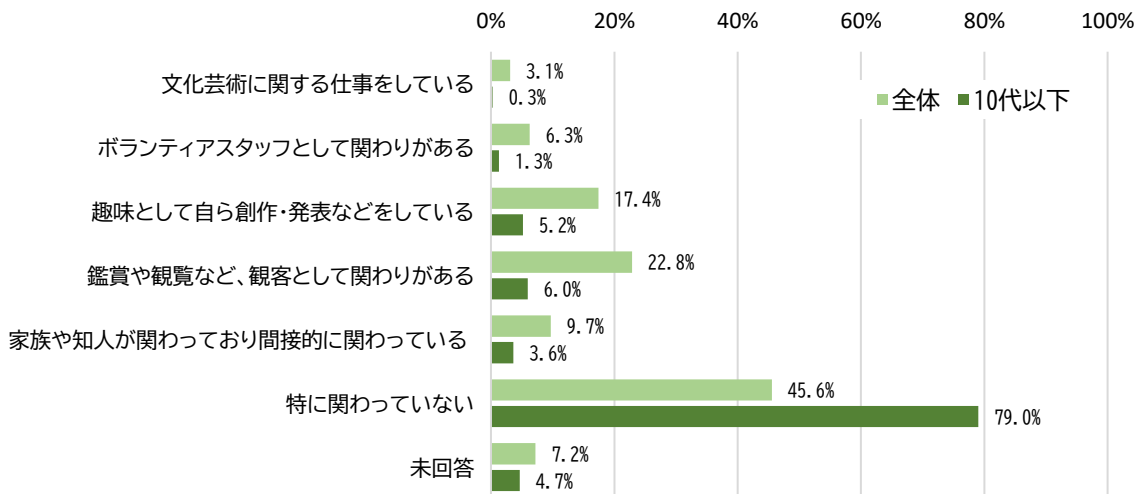
1. 市民アンケート調査結果(抜粋)

◆ あなたご自身のことについて

問1 あなたの年齢をお教えてください。



問5 現在、どのような形で文化芸術活動に関わっていますか。(複数回答可)

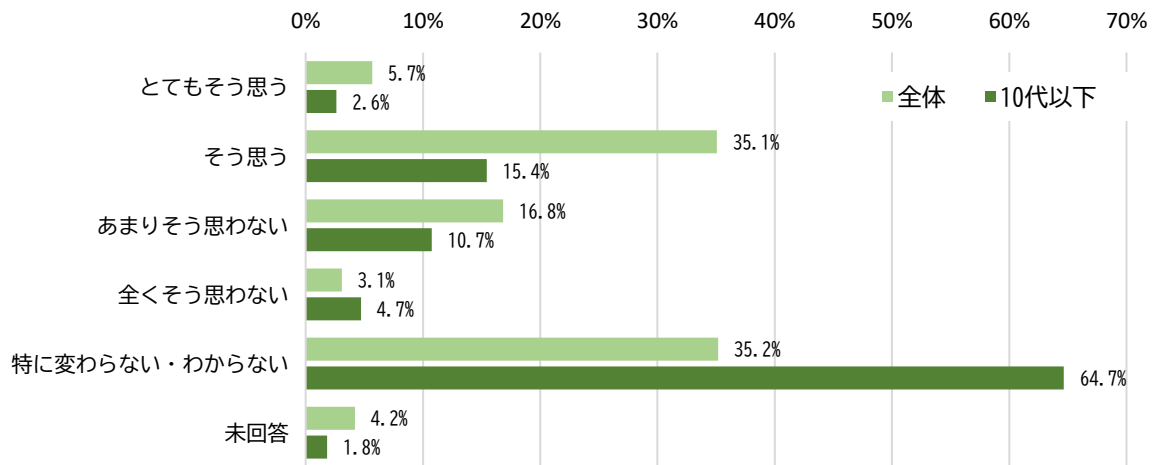


文化芸術活動に「特に関わっていない」が45.6%で最も高く、次いで「鑑賞や観覧など、観客として関わりがある」が22.8%、「趣味として自ら創作・発表などを行っている」が17.4%となっています。

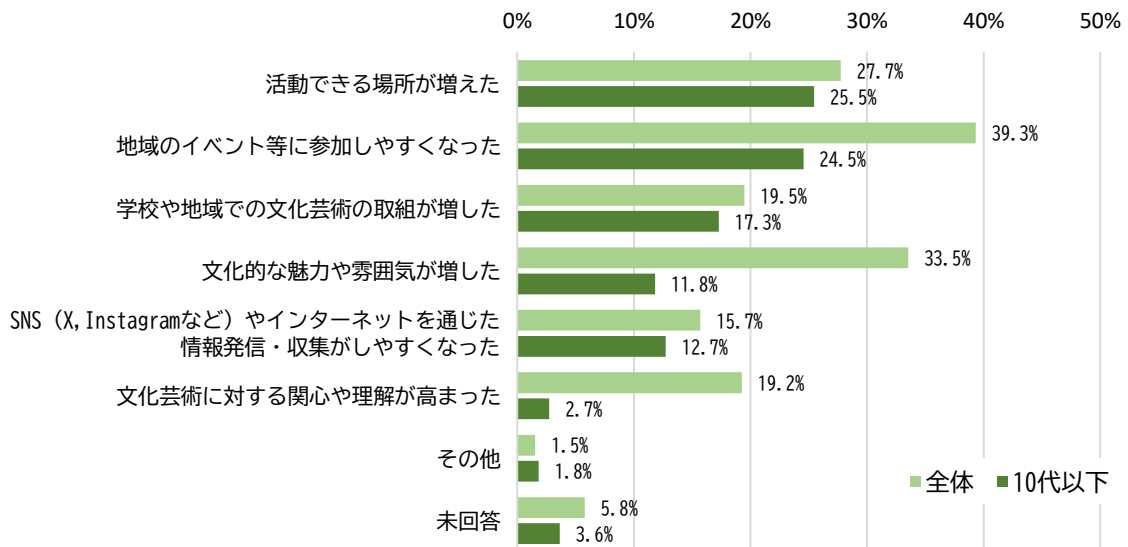
また、10代以下で文化芸術活動に「特に関わっていない」と回答した割合が79.0%と非常に高くなっています。

◆ 「門真市の文化芸術活動」について

問6 この5年間で、門真市の文化芸術活動は活発になったと思いますか。



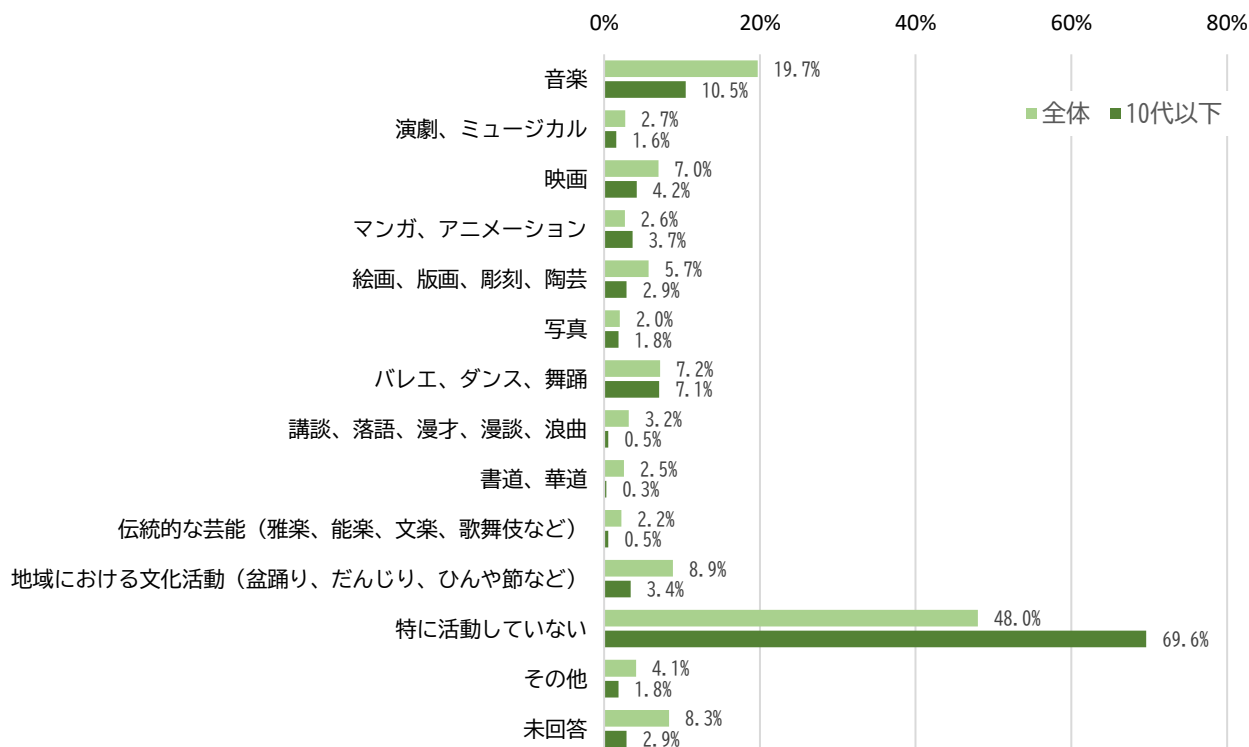
問7 問6で「とてもそう思う」、「そう思う」を選択された方にお伺いします。この5年間で、門真市における文化芸術活動を取りまく環境において、あなたが実感している変化をお教えてください。(複数回答可)



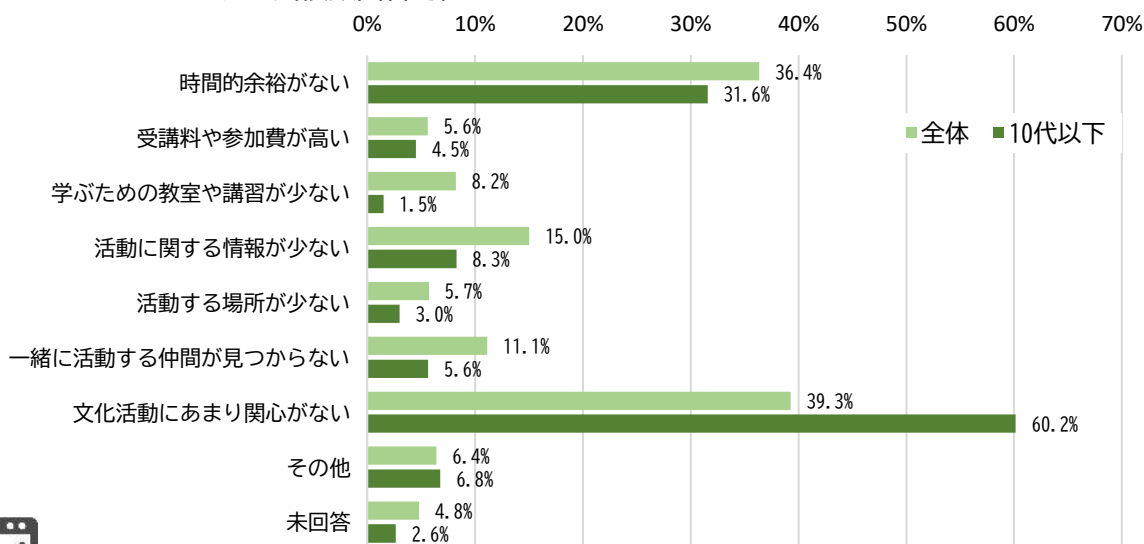
この5年間で、門真市の文化芸術活動が「活発になった」と答えた人が約40%となっています。「活発になった」と答えた人が実感している変化として、「地域のイベント等に参加しやすくなった」が39.3%で最も高く、次いで「文化的な魅力や雰囲気が増した」が33.5%となっています。

◆ 文化芸術の「活動」について

問9 あなたはこの1年間にどのような文化芸術の分野で活動されましたか。(複数回答可)



問11 問9で「特に活動していない」を選択された方にお伺いします。文化芸術の活動をされなかったのはなぜですか。(複数回答可)

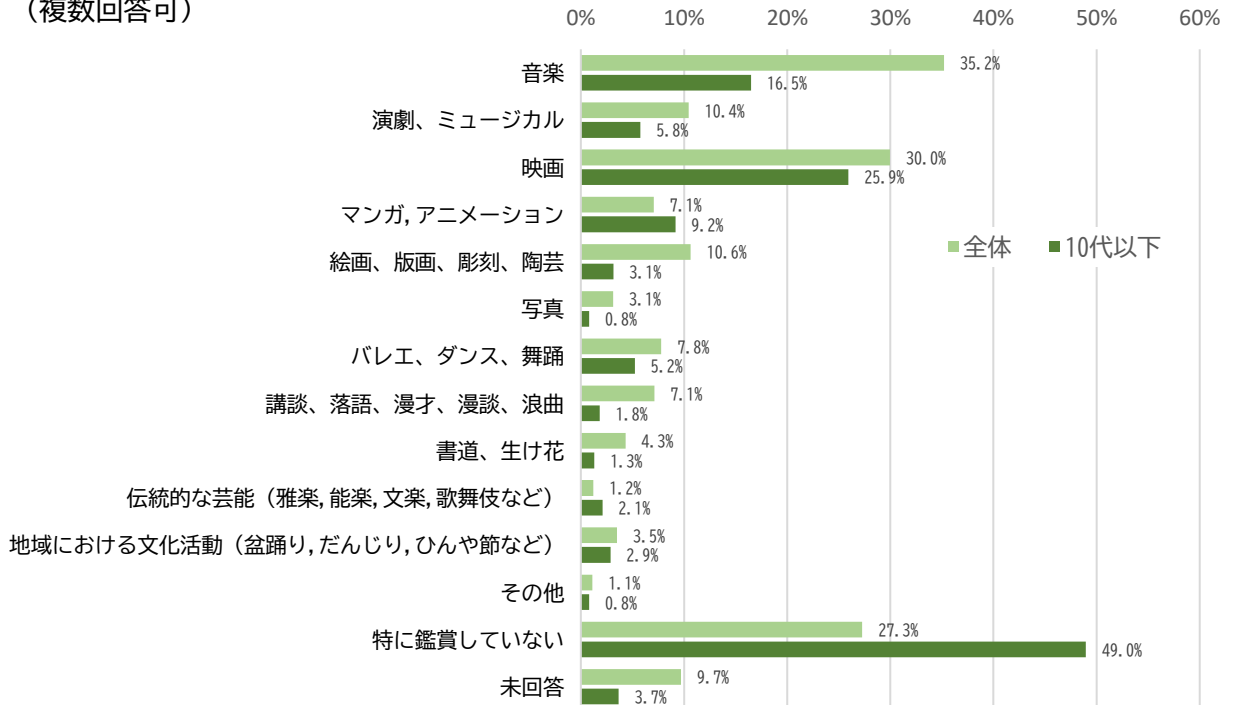


問9のこの1年間の文化芸術分野の「活動」状況について「特に活動していない」が48.0%で最も高く、次いで「音楽」が19.7%、「地域における文化活動(盆踊り、だんじり、ひんや節など)」が8.9%となっています。

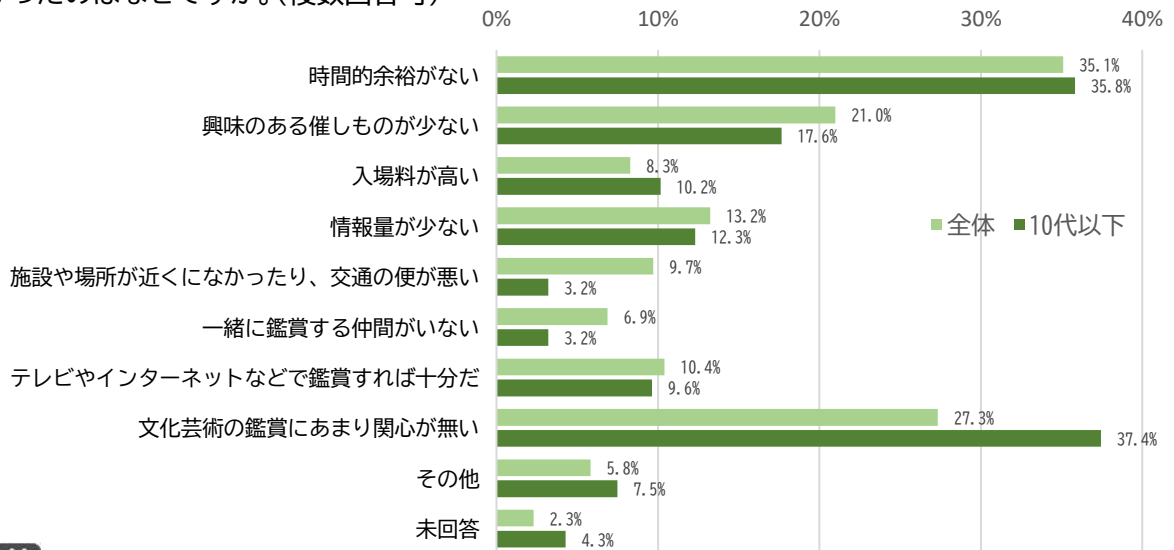
問9、問11の設問における10代以下の回答について、「特に活動していない(問9: 69.6%)」、「文化活動にあまり関心がない(問11: 60.2%)」と回答した割合が非常に高くなっています。

◆ 文化芸術の「鑑賞」について

問13 あなたはこの1年間にホールや映画館などで鑑賞した文化芸術はどのような分野ですか。(複数回答可)



問14 問13で「特に鑑賞していない」を選択された方にお伺いします。文化芸術の鑑賞をされなかったのはなぜですか。(複数回答可)

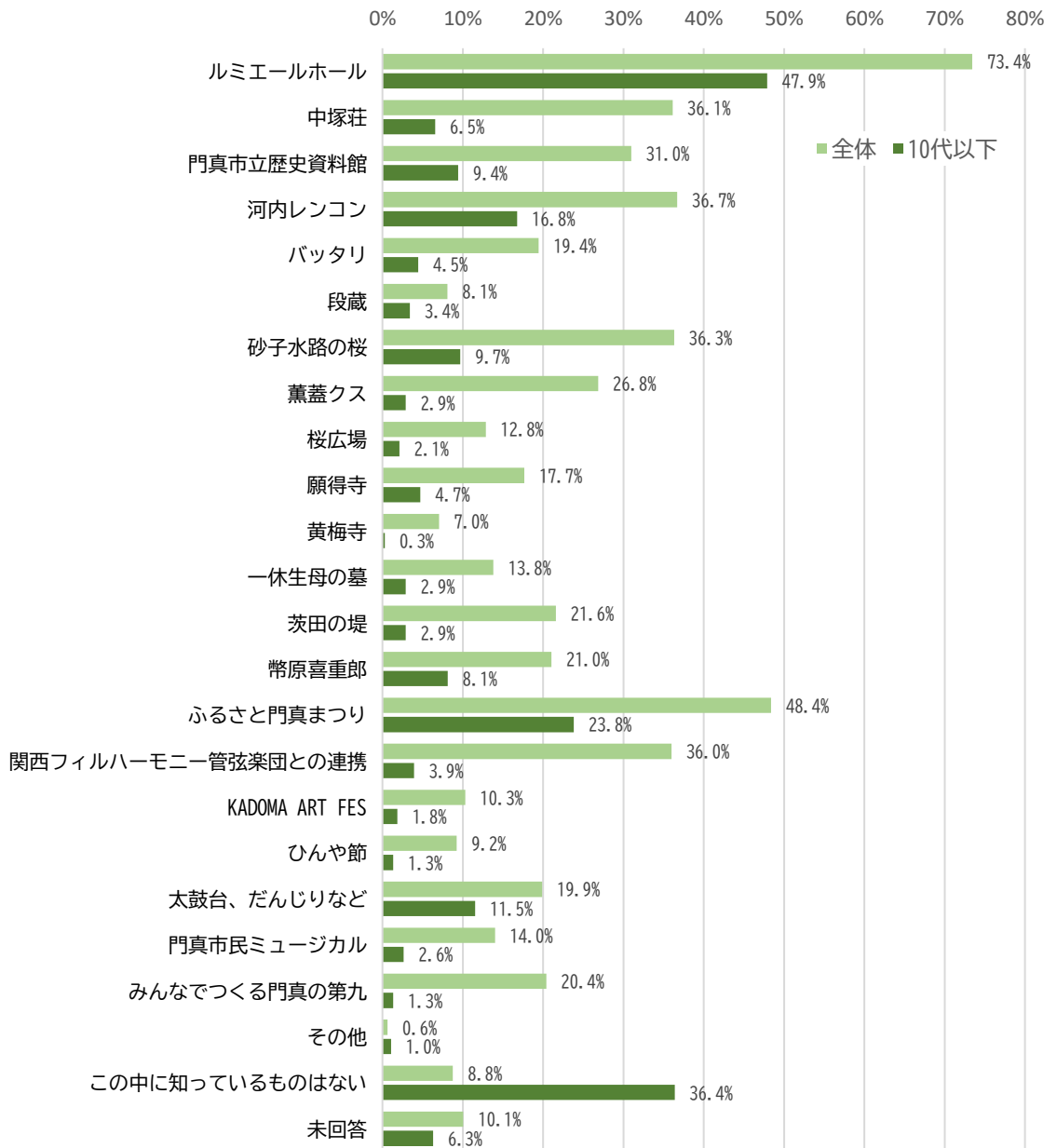


この1年間にホールや映画館などで「鑑賞」した文化芸術について、「音楽」が35.2%で最も高く、次いで「映画」が30.0%、「特に鑑賞していない」と答えた人が27.3%となっています。「特に鑑賞していない」と答えた理由として、「時間的余裕がない」が35.1%「文化芸術の鑑賞にあまり関心がない」が27.3%、「興味のある催しものがない」が21.0%となっています。

10代以下の問13「特に鑑賞していない」(49.0%)と問14「文化芸術の鑑賞にあまり関心がない」(37.4%)と回答した割合が非常に高くなっています。

◆ 文化芸術の「情報」について

問17 門真市内の伝統文化、文化的資源、文化財(自然、歴史、祭り、建物など)、文化芸術にかかる取組について知っているものを教えてください。(複数回答可)



「ルミエールホール」の認知度が73.4%と最も高くなっています。次いで、「ふるさと門真まつり」48.4%、「河内レンコン」、「砂子水路の桜」、「中塚荘」、「関西フィルハーモニー管弦楽団との連携」が約35%となっています。

また、10代以下では「ルミエールホール」が47.9%で最も高いものの、「この中に知っているものはない」が36.4%となっており、門真市内の文化的資源等の認知度が低くなっています。

◆ 自由記述回答

問18 門真市の文化芸術振興についてのお考えやアイデア等ご自由に意見をお聞かせください。

文化芸術にかかる環境整備について

- ・ 魅力的なコンテンツ(海外美術館の芸術作品展示や現代アート、没入型のデジタルアート)を地元で見たい。
- ・ 近隣の市と連携して幅広く音楽を聞ける機会を作ってほしい。
- ・ 大道芸やストリートミュージック、ストリートピアノ等の自主的に参加できる場所を多く設けると良いと思う。
- ・ 高齢者への参加の促進してほしい。
- ・ 障がい児が文化芸術を知るために施設訪問してほしい。
- ・ 街なかや公共施設等で身近に文化、芸術に触れられる機会を増やしてほしい。

学習機会の創出について

- ・ 誰でも簡単に参加ができる発表の場がほしい。
- ・ 子どもが小学校の授業で砂子水路の桜などを歩いて回った。今後もそのような授業をしてほしい。
- ・ 小、中学校では門真市の芸術振興に触れる機会が多いが、高校からは機会が減っている。高校生にも門真市について知ってもらいたいと思う。

イベントの実施場所やアクセスについて

- ・ 南部でのイベントが少ない。
- ・ 活動場所が、古川橋駅から門真市駅方面に集中しており、バス路線の廃止などで更に文化に触れる機会が減った。

文化芸術活動への支援について

- ・ 一部の団体が優遇されており新しい試み(団体)が活躍しづらい印象を受けている。間口をもう少し広げてほしい。

その他

- ・ 関西フィルハーモニー管弦楽団がルミエールホールを拠点に活動していることを誇りに思う。
- ・ 門真市にゆかりのある有名人が大使になられたり、市内でコンサートを開催してくださることで親しみを感じ、門真市が盛り上がっていることを嬉しく思います。

2. 中間見直し過程

	文化芸術推進審議会	庁内検討委員会	その他
令和7(2025)年			
6月6日		第1回庁内検討委員会	
6月13日	第1回門真市文化芸術推進審議会		
6月20日～ 7月31日			市民アンケート調査
9月18日		第2回庁内検討委員会	
9月29日	第2回門真市文化芸術推進審議会		
12月16日		第3回庁内検討委員会	
12月22日	第3回門真市文化芸術推進審議会		
令和8(2026)年			
1月9日～ 1月30日			市民意見募集 (パブリックコメント)
2月20日			教育委員会への意見聴取
3月17日		第4回庁内検討委員会	
3月27日	第4回門真市文化芸術推進審議会		



審議会・庁内検討委員会の様子

3. 審議会・庁内検討委員会名簿

門真市文化芸術推進審議会委員名簿

役職	氏名	所属等
会長	清澤 悟	願得寺住職 元アートリーグ門真 代表世話役
副会長	朝倉 洋	大阪国際大学短期大学 名誉教授 大阪国際学園 芸術文化教育センター長 大阪国際学園 吹奏楽総監督
委員	中出 悦子	門真市音楽協会 音楽監督
	わかぎ ゑん	劇団リリパットアーミーⅡ座長
	川島 慶樹	大阪芸術大学短期大学部 デザイン美術学科 工芸・立体デザインコース 特任教授 彫刻家
	山下 里加	京都芸術大学 アートプロデュース学科 教授 アートジャーナリスト

門真市文化芸術推進基本計画庁内検討委員会委員名簿

役職	氏名	所属等
委員長	清水 順子	市民文化部生涯学習課
副委員長	中村 賢	市民文化部生涯学習課
委員	岸 ケニ一龍之介	企画財政部企画課
	小西 紀至	企画財政部魅力発信課
	黒木 修功	市民文化部地域政策課
	森本 悠介	市民文化部産業振興課
	辻本 貴大	保健福祉部障がい福祉課
	蔵元 謙介	こども部こども政策課
	清水 義之	まちづくり部地域整備課
	上野 安宏	環境水道部環境政策課
	玉田 一真	教育委員会学校教育課

4. 諮問・答申書

諮問書

門市生第468号
令和7年6月13日

門真市文化芸術推進審議会
会長 清澤 悟 様

門真市長 宮本 一孝



門真市文化芸術推進基本計画について（諮問）

門真市文化芸術推進条例第6条第4項の規定に基づき、門真市文化芸術推進基本計画の改定に関し、貴審議会の意見を求めます。

答申書

答 申 書

令和8年3月27日

門真市長 宮本 一孝 様

門真市文化芸術推進審議会
会長 清澤 悟

門真市文化芸術推進基本計画について（答申）

令和7年6月13日付け門市生第468号をもって諮問された門真市文化芸術推進基本計画の改訂につきまして、計画改訂版（案）を取りまとめ、ここに答申します。

門真市文化芸術推進基本計画改訂版

令和8(2026)年3月

発行 門真市

編集 門真市 市民文化部 生涯学習課

〒571-8585 大阪府門真市中町1-1

TEL 06-6902-7139